



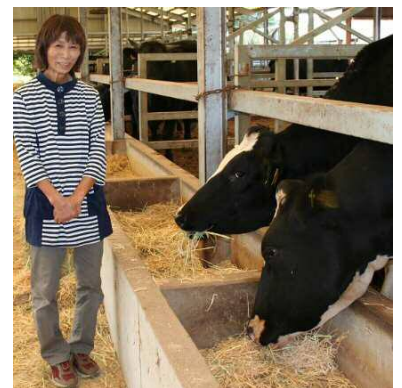
知多半島の東浦町で乳肉複合経営を営む原田やす代さんをご紹介します。原田さんは、家族3人の労働力で乳用牛60頭、肉用牛130頭を飼養しています。地域で標準的な規模で安定した経営を実現しながら、長年、食農教育に尽力しています。

やす代さん就農後の原田牧場の経緯

原田やす代さんは昭和54年に夫の芳房さんとの結婚を機に就農しました。当時の原田牧場は酪農のみを営んでいましたが、芳房さんの「これからは乳肉複合の方が経営が安定する」との意見により、昭和57年ごろから肉用牛を飼い始め、昭和59年には本格的に乳肉複合経営を開始しました。

原田さん夫婦は相談の末、規模拡大するならば若いうちにやろうと決断し、昭和62年に40頭規模、平成8年に48頭規模の肥育用牛舎を新築しました。肥育は給餌において酪農と大きな違いがあり、自家製の発酵飼料と濃厚飼料の配合や給餌量を試行錯誤した結果、枝肉の評価が高まり、安定した価格で販売できるようになりました。

乳肉複合の生産体系は、効率的・安定的であるとともに、牧場で生まれた子牛をすべて、命をいただくその日まできちんと育てることができ、やりがいにつながっています。



原田やす代さん



子牛の管理はやす代さんが担当

次世代に続く歩み

平成17年に息子の拓芳さんが就農し、原田さん夫婦に加えて拓芳さんが主力で働くようになりました。平成24年に夫の芳房さんが突然の手術と1か月もの入院を余儀なくされ危機に陥りましたが、やす代さんと拓芳さんで日々の作業や年間計画を見直し、なんとか乗り切りました。

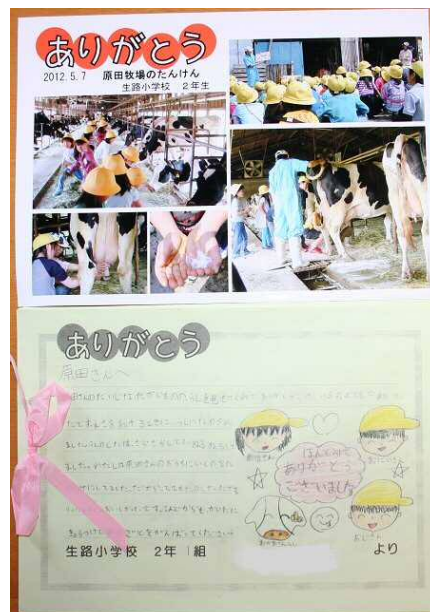
さらなる経営安定のため、平成25年に新たに肥育用牛舎を建てました。また、酪農については、TMRミキサー（飼料攪拌機）を導入し、濃厚飼料と粗飼料が均一に混合できるようになり、配合や給餌の労力が削減できました。さらに、牛の健康状態が向上し、乳量が安定しました。

食農教育の取組

原田牧場の大きな特徴は食農教育に取り組んでいることであり、やす代さんはその講師として30年近く“酪農体験を通じた食農教育”を実践しています。平成2年ごろから地元の生路小学

校2年生の総合学習の一環として、春の遠足で給餌や搾乳、バター作りの体験を受け入れ、その年度の2月には授業で命の大切さや食べ物大切さを教えています。授業では、この世に生まれた動物も人もすべて親から生まれた尊い命であることを教えるため、原田牧場で牛の出産を撮影したビデオを見せています。牛の出産を実際に見た人からは、「大人になっても覚えている」と言われるほど子供たちの印象に残るようで、食農教育の中心的な要素となっています。

この取組は、結婚してすぐのころに保育園からの依頼で、園児の散歩やお絵かきに協力したことに始まっています。息子の拓芳さんは、保育園の散歩で自分の家の牛舎に来たり、小学校の授業で自分の母親が先生の役割を担って、命の大切さを教える姿を見てきました。その影響か、やす代さんが続けてきた食農教育を、拓芳さんが就農後に一緒に担うようになりました。これを機に酪農教育ファームの認証を受け、教材の充実や授業の進め方が改善されています。また、昨年は名古屋市の小学校でも出前授業を行っており、教えることが日常の一部であり、ライフワークとなっています。



食農教育の授業を実施後に小学校が送ってくれた感謝のメッセージ

アドバイザーとしての活動と地域貢献

やす代さんは、平成12年に県知事から農村生活アドバイザーとして認定されました。頼まれたことは断らないという信念のもと、酪農に必須となる朝夕の搾乳作業と、アドバイザーの仕事の日程を夫婦で調整し、農業と両立しました。アドバイザーとして、東浦中学校で地域の伝統料理の鶏めしや地域の農作物を使用した料理（イチゴ大福や米粉パンなど）の調理実習の講師を務めました。また、工業も盛んな町だからこそ農業への理解促進が不可欠という理由から、他のアドバイザーとともに歴代の町長との情報交換会を続けています。「農業に関わる者として、地域で育つ子供たちの意識のどこかで農業の大切さを覚えてもらっていたり、その先の人生に何かの役に立つことがあればそれでいい。それが私たちアドバイザーの役目。」と話してくださいました。

また、畜舎などの敷地境界周辺に600本余りの景観樹木（ムクゲ、サザンカなど）を植栽したり、敷地内の畑に景観作物（ヒマワリ）を作付け、地域の人たちに気持ちよく思ってもらえるように環境美化を15年以上続けています。最近、拓芳さんが結婚し、やっと一息つける一方で、引き続き、食農教育や地域貢献に携わりたいと話してくださいました。



上:牧場の入り口、下:ヒマワリが咲いている様子

執筆：農業経営課

取材協力：知多農林水産事務所農業改良普及課